

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	株式会社 新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホームあいりん		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	平成28年9月7日	評価結果確定日	平成28年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4271601223-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、お客様の日常生活においての言葉かけや、安心、安全に快適な生活ができる支援の取組み日々、お客様の表情豊かな笑顔で暮らせるような雰囲気作りと、その人らしく暮らせる支援に添った支援に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員同士の協力体制が密に取ることができている。その根源は入居者の気持ちを大切に、「入居者の笑顔を見たい」という共通項で結ばれており、事業所の理念が職員に浸透していることが伺える。また、地域密着型の事業所として、地域との繋がりは多頻度であり、行事や取り組みを通じて密着しているが、このレベルを超えて、地域活性化に目を向けて動きだしている。更に、通常の入居者への支援内容については、1つ1つの課題に対して、職員皆で情報を共有して、課題解決に向け個別援助を実践している。特にこの個別性の部分が、丁寧に詳細な内容となっていた。最後に、共用部分と各居室ともに、四季折々の飾りつけがなされている。入居者は可能な限り職員と一緒に飾り物を作り、季節感を感じることができる。来訪者はこれらのディスプレイだけで、ホームのぬくもりを感じることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心と心のつながりを人と人とのふれあいを大切に」理念を掲げ、共有し添えるように実践につなげている。	理念の文言の一部である、「人と人とのふれあい」については、入居者やその家族まで含めて大切に考えており、ふれあいの延長線上には、地域の活性化まで視点を向けている。職員は理念について理解度が高く、入社後や毎年定期的に、共有を図る目的で話し合いも行っている。理念の聞き取りの中で、入居者を中心に考えたケアの在り方を、常に模索していることが伝わってきた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元老人クラブ、小、中学校、隣接する保育所との交流があり、地域の祭りにも参加して、日常的に交流を深めている。	入居者の重度化等もあって、多頻度に外出できない分、職員が地域の活動に積極的に参加して、地域との接点を保っている。最近、法人で龍踊りの楽器を揃えて、地域の様々な行事にて披露している。このような活動が、事業所のことを知ることに繋がり、入居者の安全で安心した生活にも連動するため、事業所としては、継続して地域貢献していくことを確認することができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体験学習、ホーム見学者の受け入れ、広報誌、ホームページにおいて、発信、地域行事の参加、散歩の挨拶や会話で活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、関係団体からの意見交換による指導、助言、要望をサービス向上に活かしている。	最近、会議の中で特に目立った要望等はなかったようだが、日本列島で自然災害が続いたこともあり、非常時の対応については、常にアンテナを張っていることを確認することができた。また、今年度の会議の中で、認知症ケアにおいて著名な医療関係者を招き、入居者視点で様々な意見交換が交わされ、とても有意義な機会となっていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者との意見交換、助言、情報収集等日頃から連携をとってをいる。	行政の担当者は、ほぼ固定化されており、顔の見える関係を構築している。行政の方針として、認知症高齢者にとっても、住み慣れた在宅での生活が、一番好ましいというのは理解できるが、なかなか思う通りにいかないところに、今後の課題を見出していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかけない、見守りケアを重視しながら、言葉かけには特に配慮している。	人権擁護の観点から、職員は身体拘束の禁止の件や虐待防止の考え方を、定期的に社内や社外研修という形で、学ぶ機会を得ている。また、入居者への処遇等に関する、直接的な指導は介護主任が実施して、不適切な関わりがないように、実務レベルにおいても配慮がなされている。印象的だったのは、いわゆる『徘徊』を行動障害と取るか、歩くことに着目して『歩行訓練』ができるかと認識するかという考え方の点であった。事業所では後者の捉え方をし、入居者の特性をポジティブに受け止めた支援方法に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて知識を深め、言葉かけ等も意識して努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば参加しているが、現状では必要なお客様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネージャーと連携して、ご家族とお客様を交えて十分な説明や意見交換を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションを取り、日頃から意見が言いやすい雰囲気作りに努め、相談、要望があれば連絡ノートで共有し会議で改善に取り組んでいる。	入居者やその家族からの意見抽出は、運営推進会議等の場だけではなく、今年初めて、家族だけの交流会を開催して、情報の共有を図る取り組みを始めた。会では入居者の普段の様子をスライドショーで投影して、表情や動作、取り組み等伝える工夫をしている。また、この交流会の最後にアンケートも取るようにして、口頭のみ意見聴取だけではなく、書面も活用して意見を収集できるように努めている。こここのところ、運営に関する意見は家族から聞かれていないが、今後期待できる取り組みと言える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案は全体会議、ミーティングで話し合い実践につなげている。	職員の意見の聞き取りについて、上位者は普段のコミュニケーションを、とても大切にしていることを、ヒアリング中で確認することができた。この意図的な取り組みに加えて、職員会議の場では、手すりの不具合等設備面の報告や、勤務体制相談があつて、改善した例を聞くことができた。職員の考え方や入居者への支援内容も含めて、今後、現場の声が今以上に、上位者まで届くような工夫が必要の様子であった。	事業所としては、今以上に職員の声が見出し出してほしいという思いがある。上位者は、職員の意見をうまく引き出す工夫と、自ら考えて行動できる職員を、一人でも多く育てられるような人材育成面での計画化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の生活状況を考慮した、職場環境、条件の整備がおこなわれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を確保し、定期的な勉強会で職員個々が成長できる取り組みを、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会で意見交換を行ったり、施設見学等でサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りに努め、自宅訪問やホームの見学等により安心感を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅への訪問や、ホームの見学をして頂いたり、安心を確保する為のコミュニケーション作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様、ご家族、ケアマネジャー、管理者で不安や気になる点は納得して頂けるまで話し合うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の意を持って接するように心がけている。いつも心に寄り添った家族のような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのコミュニケーションを十分に取り、信頼関係を築くように努めている。安心、安全な環境、雰囲気作りを家族と考え実行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に添い外出の支援に努めている。関わりのある方にはお礼状、電話にて馴染みの関係づくりに努めている。	入居者にとって、一番身近な家族と、できるだけ接点を持つことができるように、足の悪い家族は迎えに行ったり、衣替えの時期に面会ができるように工夫している。入居者と家族との関係の継続は、ホーム内での入居者の支援内容において、重要な項目であるという認識を持っており、職員はできる限り関係が途切れないように気掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を聞いたり、性格や人間関係を把握して、職員が調整役になり、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お盆、お正月の定期的な訪問、手紙の発送、地域で出会った際の挨拶、言葉かけにより、関係作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で、表情や気持ちをくみ取りご家族からも協力を得ている。	入居者に常に寄り添い話しをする中で、表情や動き方を良く観察する、家族から今までの習慣を聞く、どのように接したら落ち着くかを考えることが入居者の思いの把握に繋がっている。把握した思いを連絡ノートに記入し共有しながら全職員で話し合い、客観的に把握する仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中でコミュニケーションを多く持ち、思いを受け取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握や見極めに努め、一人、一人の心身状態の変化に気付くように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケース会議を行い、状況変化によって見直し、作成をしている。	入居者の生活課題、日々の変化と家族の要望を踏まえ、具体的な目標と支援内容を職員間で話し合い介護計画を作成し、ケース会議で確認することでケアの統一を図っている。モニタリングは基本的に6ヶ月ごとに行うが、状況変化に応じて随時行い、次の介護計画に繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、情報を共有しながら、個別記録に記入、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援サービスの多機能化に取り組んで、臨機応変に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の馴染みから散歩の途中、庭の花を見せて頂いたり、分けて頂いたり、花を飾り、暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、特変時の受診支援も安心して相談でき、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者本人や、家族が希望する医療機関に受診している。通院方法や報告のあり方は入所時に話し合い、受診結果を家族と共有している。入居者の日々の経過を医療機関に報告し、信頼関係を築いている。医療機関との救急時の連絡体制も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師の支援を受けている。状況を的確に伝え、気になる事は電話で相談、助言を頂き、適切な受診、看護が受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、家族、医療関係との連携に努めている。面会時の情報収集、入院中の状態把握にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い、主治医の意見や助言により、看取り介護を行うように努めている。緊急時は事業所全体で支援に取り組んでいる。	「看取りに関する指針」を作成し、施設の考え方や具体的な支援内容を家族に説明している。重度化した場合は、状況変化の度に主治医と家族、職員で今後の方針を話し合っている。「看取り介護に関する説明書」や「看取りの介護の事前協議書」で家族の同意を得る等、看取りに向けた体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的に行い、冷静に対応できるように実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的な避難訓練の実施、指導助言を頂いている。消防署での研修参加もしている。近隣住民の協力体制も築いている。	「消防計画」「自然災害対策避難計画」を作成し、年2回夜間想定訓練を実施している。実施後、消防署からの助言や反省会での意見を踏まえて次の避難計画を作成している。地域の特性として、特に台風や土砂崩れ対策が重要であり、避難経路、備蓄等を検討している。近隣のお店や派出所、住民との協力体制もある。排煙窓の設置やコンセント等の設備点検も毎日行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人、一人の個性を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや、安心できるケアの徹底に取り組んでいる。	年長者として敬意を払い、馴れ合いにならないように、「お客様」としての認識をもち、声かけ等に配慮している。気になる言葉かけがあれば、その都度主任が指導している。「入居者の尊厳」に関して法人全体の朝礼や終礼で話し合い、細かい注意を各部署に伝える等、日常的な確認と改善に向けた仕組みがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、思いや表情を読み取り、本人の思いに自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とならないように、お客様のペースにあった支援をするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しんでもらえるように支援している。お客様の家族の方、美容師の方が定期的に髪のカット支援して下さる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理手伝い、手作りおやつ、お弁当の日を設け、楽しく食事ができる工夫、雰囲気作りを大切に季節感を取り入れた支援をしている。	野菜の皮むきやフライの衣付け等、入居者の力を活かした支援をしている。地域住民や職員からの差し入れ、旬の食材を取り入れて職員が調理を行っている。「口から食べる」事を大切にして、食欲のない入居者を買物に連れて行く、月1回お弁当の日を作り外で食べる、入居者の状態に応じて食事の形態を見極める、入居者の希望を献立に取り入れる等、食欲を高め食事への関心を引き起こす工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェック、状態に応じた量や形態、味付けで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施、口腔状態のチェックを気にかけてしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行い、なるべくオムツ使用をしないように心がけて支援している。	入居者をよく観察して、排泄のサインを全職員が把握しトイレに誘導している。車椅子の入居者もトイレまで歩く等、運動機能の改善に向けて努力している。入居者は基本的に布パンツと尿パットで過ごす等、細やかな支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活に工夫しながら、水分摂取、毎朝の牛乳、適度な運動、腹部マッサージなどを行い、自然な排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様に応じた入浴支援をしている。コミュニケーションのもてる楽しい支援の場になっている。	基本的に毎日入浴している。湯船の中で可動域を広げるマッサージを行いながら、入居者と楽しく会話する時間を大切にしている。入浴を拒む入居者は家族から習慣や好みを聞き、不安を観察して、支援方法を変えながら対策を考えている。上手く行った支援方法を連絡ノートで共有して実践する等、入居者が入浴を楽しむ事ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ、静養したり、日中の活動を促し、安心して心地よく休んで頂ける支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを使用して、内容の把握に努め、服薬時は手渡し、飲み込み確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で得意事や力量に合わせ、役割や楽しみを見出せるように支援しています。行事参加、気分転換の支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの神社へ散歩がてら参拝に行ったり、お客様、家族の希望で外出支援をしている。	気候の良い時期は朝の散歩を日課にしている。入居者の希望で買い物や魚釣りに行く、海遊びで貝殻拾いをする、散歩に出かけ地域住民と話しをする等、好みに応じた個別の外出支援を行っている。重度の入居者は窓際でおやつを食べる等、気持ちよく過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の能力、経済状況に応じて一緒に買い物に行ったりの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話や手紙を出せる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を感じられるように工夫している。居心地よく過ごせるように、室温、温度、音、光、加湿に配慮している。	季節に応じた飾りつけを工夫する、入居者の書いた習字や楽しい写真を貼る、窓辺に花を置く等、家庭的な温もりを感じる空間を作っている。椅子の足にカバーをかけ、滑り止めや消音への配慮もある。調理している職員と対話ができる位置にテーブルやソファを置き、常に入居者と共に居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人での時間は見守り対応で支援し、共用空間ではトラブルにならないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス、寝具類を使用したり、家族の写真、思いでの品等で居心地よく感じて頂けるように努めている。	居室前に写真や手作りの名前プレート、小物を置き、入居者が混乱しないように工夫している。居室にも季節を感じる飾りつけや家族の写真、誕生日の寄せ書き、仏壇、鏡台を置き、家庭的な居心地の良い居室を作っている。家族の訪問時は居室でゆっくり過ごし、家族とスムーズに話ができるように対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置等危険リスク回避に努め、安全、安心、快適な自立した生活ができるよう支援の工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	株式会社 新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホームあいりん		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	平成28年9月7日	評価結果確定日	平成28年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvoCd=4271601223-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、お客様の日常生活においての言葉かけや安心、安全に快適な生活ができる支援の取り組み、日々お客様の表情豊かな笑顔で暮らせるような雰囲気作りとその人らしく暮らせる寄り添った支援に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアを念頭におき、目に付く所に掲げ共有することで、支援に繋げる手段と捉えて実践に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、日課の散歩、近所の方の出入り等、開かれた事業所を目指し、交流を心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様や親戚の方の面会時等、お話しする機会や、また外部の方との交流する機会など折にふれ説明させて頂くことや、尋ねられた時など理解して頂くよう努めている。広報誌、ブログの掲載、見学の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議をするにあたり、取り組みの報告、要望、ご意見をお聞きする時間を設け、サービス向上の場とし改善へと活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議での報告など、役場へ出向く機会等にお話しさせて頂いたり、ケアマネージャーよりアドバイスを頂いたりしながら、関係性を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は基より、言葉の拘束も理解に努め、お客様の行動を制止しないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待は基より、言葉の虐待にも注意を払いお客様の行動による皮下出血、剥離等にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等権利擁護を学ぶ機会を持たせてもらっている。今のところ活用に至るまではないが、今後活用する機会があれば支援していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時の説明また質問を受けた時は説明を行い理解を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時には、意見を出しやすい環境作りを心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、状況に応じてのケース会議等意見提案を開く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況の整備、労働時間の把握しやりがいを持てる環境作りに努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を行い、外部の研修を受ける機会の確保にも努めて頂き、ケアへの実践を指導して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を設けて頂くことにより、サービスの質の向上の取り組みを、認識させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何が不安に繋がり、何が安心に繋がるのか、会話や観察強化をすることにより、関係作りの確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安なこと、今までの頑張りや、要望に共感しつつ、今後のサービスを信頼関係作りに繋げるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の思いとご家族様の思いが共通の支援となり結びつくよう、見極めながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には母となり、時には娘となり、また家族の支えとなり、家族の代わりに支援させて頂く関係性を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会話が難しいお客様は、家族の皆様との関係性が良好なものとなるよう間に入り、支援させて頂く関係を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、友人様や、知人様等交流を大切にしながら関係性の継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の対人性の把握に努め、関わりを促す支援を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も自宅の訪問や、お便りでの挨拶等、足を運んで頂ける関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の背景にあるものを活かしつつ、本人様の落ち着いた環境作りに努めると共に、本人様の思いをくみ取るよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境の流れに添いつつ、ケアの取組みへ繋がるよう把握と経過の見直しに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の過ごし方を重視すると共に、心身状態の見極めを間違わないよう、日々のケアの変化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が無理なものとならないよう、出来る事に視点を合わせ、ケアが活かせる介護計画を心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録だけで終わることがないように、記録漏れの確認、情報の共有を心がけ、計画書の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望にお応えできるよう、柔軟な対応を心がけて送迎や付添などの支援に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用で暮らしに彩りや刺激となり、楽しみとなるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と、かかりつけ医との連携をもち、本人様にとってのメリット、デメリットを考慮し支援に繋げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアの中で気付きや、気になることは訪問看護師に相談し、ケアの中に取り込み支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様とのカンファレンスの同行や病室に訪れ、情報の収集に努め、早期退院に向けドクターとの連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針やケアの統一は行っているが、看取りまではまだ行っていないので、今後は取組みにむけた支援を目指したい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は消防での訓練や、事業所での指導を行い、速やかに対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震災害に向けた避難訓練を、定期的実践するとともに、火災を防ぐための消防点検をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排便の確認や更衣等他の方に気付かれないよう、また本人様にも気付かれないよう声掛けにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定可能な方には希望を伺ったり、要望も伺いつつ、自己決定して頂ける働きかけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の動きだけでなく、お客様の動きに合わせ支援できるよう心がけている。その人の状態に合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の希望や、本人様の希望に添って支援したり、その人らしさの身だしなみに心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、お米研ぎ、食器洗い等一緒にしながら、食事作りも手伝って頂いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患や皮膚の状態、便の状態を考慮し、水分量や携帯を調整し確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様の状態に合わせた口腔ケアを実施し、舌磨きも行い、保清に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心がけ、排泄表を確認しトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減や、自然排便を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす病気への影響を十分に理解すると共に、排便への働きかけを行うケアを重視している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯船へ入る効果を理解し2人介助にて支援を行っている。身体チェックの場としてケアと共にふれあいの場としている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の心身の状態に合わせ、休息して頂いたり、眠りたいタイミングを図り夜間への睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前の確認を行い、服薬して頂き、また本人様の状態をドクターと相談し、状況の変化に注意しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を活かし、また食べる事の楽しみ、経口摂取を大切に行事を通じて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設内に閉じこもることのないよう、地域の方との交流も交え外出する支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は所持できる範囲の方はいないが、買い物に行き使える様に支援して頂けるよう、努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いたり、贈り物の御礼の電話をかけさせて頂いたり、ご家族への状況報告のお便りなど支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの誘導の仕方、介助の仕方の統一を図り、混乱を招かない配慮をし、配置、光や音、湿度、温度管理など居心地良さを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着きたい時、心細い時、お客様同士の会話できる空間や席の配置など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家からの馴染みの物をお持ちして頂き、ご家族様との触れ合いの場となるよう活かしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置やポータブルの位置など、怪我に繋がらないよう、安全面や活用性を工夫している。		